

《大学》

富山県立大学

【企業社会で活躍できる骨太人材育成プラン】

取組の概要【1ページ以内】

本学ではこれまで、学生のキャリア形成を支援する多様なプログラムを体系的に実施し、毎年ほぼ100%の高い就職率を維持してきているが、地域企業からは本学卒業生に対し、積極性、統率力、コミュニケーション能力の点で不十分との評価がある。また、近年、目標の喪失や心身の不調などから学生生活、就職活動に困難をきたす学生が増加傾向にある。このような中、本プランは、これまでのキャリア形成に関する取組を一層強化発展させるため、地域の専門機関等の協力を得て、下記の多面的な取組を新たに統合実施し、学生の自立心・社会性を涵養するとともに、柔軟性のある、また、耐性に優れコミュニケーション力のある学生、すなわち心身共に骨太な人材育成のためのプランを構築することを目指すものである。

現在の複雑かつ変化の激しい企業社会で活躍できる人材育成とその評価（企業に対する就業力評価アンケートの実施等）の手法（下記図1参照）を確立し、これを他の高等教育機関で活用可能な人材育成モデルとして提示していく。

I 学生の自己開発力を強化するキャリアドックの開発・実施

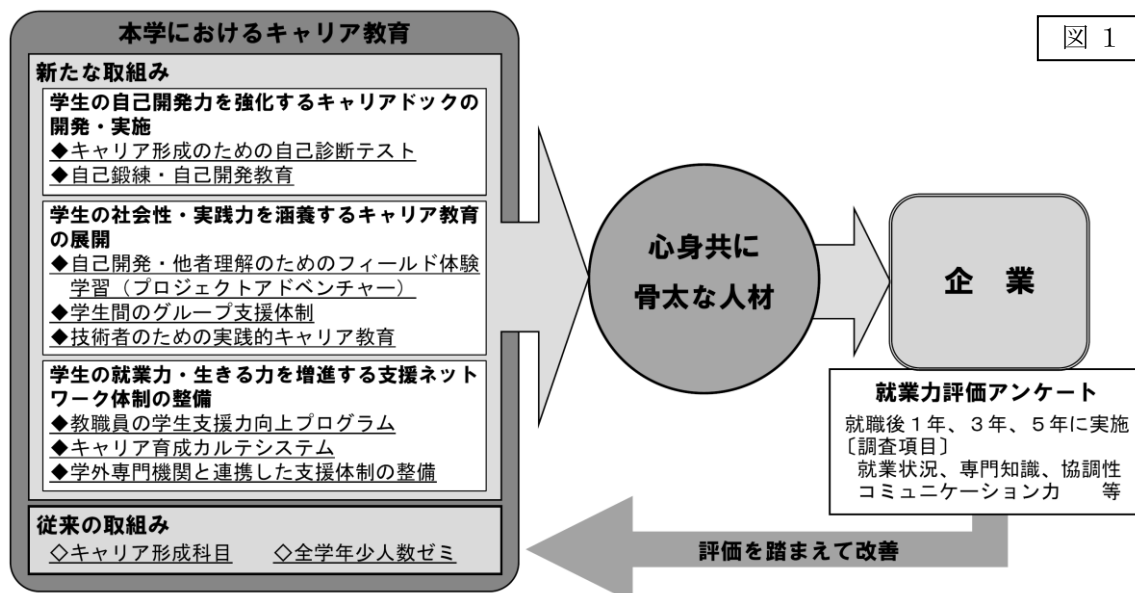
キャリア形成のための自己診断テストの実施及び自己鍛錬・自己開発教育の展開により、学生が自己の性格・適性を知り、自己開発に必要な認識・態度等を獲得するキャリアドックを開発、実施する。これにより、学生生活を通じて目標を持って社会人となるために意欲的かつ自発的に勉学やキャリア形成などに取り組むことを目指す。

II 学生の社会性・実践力を涵養するキャリア教育の展開

自己開発・他者理解のためのフィールド体験学習（プロジェクトアドベンチャー）の実施及び学生間のグループ支援体制の構築により、学生の他者理解力や社会性を高める。また、環境マネジメント及びコミュニケーション力を育成する講座を開講することで、技術者のための実践的キャリア教育を展開する。

III 学生の就業力・生きる力を増進する支援ネットワーク体制の整備

教職員の学生支援力向上プログラムの策定、キャリア育成カルテシステムの開発、就業力育成支援員の配置、地域の専門機関と連携した相談支援体制の構築により、学生一人一人の実情に応じたきめ細かな指導、支援を行う。



《大学》

三重県立看護大学

【休退学・早期離職防止のキャリア形成モデル】

取組の概要【1ページ以内】

看護系大学を卒業した学生は、看護師の不足もあってほぼ100%の就職決定率である。しかし、在学中に進路変更等を理由に休退学する学生や、看護専門職の看護師、助産師、保健師のいずれに就くか4年次になっても迷っている学生も存在する。また、看護師は就職後1年以内の離職者数が約9%と非常に多く、各医療機関での課題にもなっている。これまで本学をはじめとする看護系大学では就職率決定率が100%であるため、キャリア形成を目的としたガイダンスを実施している大学はほとんどなかった。このことが就職後の離職者数を多くしている原因とも考えられる。

本事業は、本学に入学した看護大学生を対象に職業観やアイデンティティの醸成を目的とした「学生キャリアガイダンス（仮称）」を主軸として展開する。加えて看護専門職者となる人材を育成する本学においては、入学時点で将来的な職業展望をある程度持っていることが重要であると考え、看護系大学に進学する意思のある県内高校生を対象に入学時点で看護専門職者としてのアイデンティティ醸成の芽を育むことを目的とした「看護大学進学キャリアガイダンス（仮称）」も事業として展開する。

「学生キャリアガイダンス（仮称）」は、学年毎に「私が選んだ看護の道（仮）」、「保健師ってどんな職業？（仮）」、「助産現場の現実・現状（仮）」、「就職後の私の展望（仮）」をテーマとし、講義とグループワーク等の演習により事業を構成する。講義には現任の看護師、保健師、看護師を招聘し、自らの職業観や看護観を語ってもらう。演習にグループワークと発表を組み入れることにより、学士力として必要とされるコミュニケーションスキルやチームワーク、創造的思考力が育成されることに加え職業倫理を学習する機会にもなる。

「看護大学進学キャリアガイダンス（仮称）」は、ステップ1から4までで構成する。ステップ1は、「看護職への道」として一般的な進学説明の内容で行う。通常、高等学校からの依頼内容に該当する。ステップ2は現任の看護師によって臨床現場の状況を語ってもらう。ステップ3は現任の保健師、ステップ4は現任の助産師から語ってもらう。ステップ2から4は、ステップ1の内容をさらに発展的に深く学習（職業選択）しようとする高校生を受講の対象とする。2から4のステップでは基本的にはそれらの資格を取得するためのカリキュラムを説明の後、現任の看護専門職からの生の声を語ってもらう。また、ステップ2から4については看護学の基礎的な内容も含めて本学で実施し、「看護大学進学キャリアガイダンス（仮称）」をすべて受講した者については単位の認定を行い、看護系大学入学時点でのキャリア形成につなげる。

以上のように、本事業は大学在学中のみならず、高等学校や医療機関との連携による事業としている。看護専門職としての就業力の育成は、看護大学入学前から培われ入学後の学習によって醸成される。本事業は、これまで就職決定率の高さに甘んじて十分なキャリア形成支援を行ってこなかった全国の看護系大学に向けての先進的モデル事業となりえる。

《大学》

京都府立大学

【地域社会と関わる人間を育てるキャリア教育】

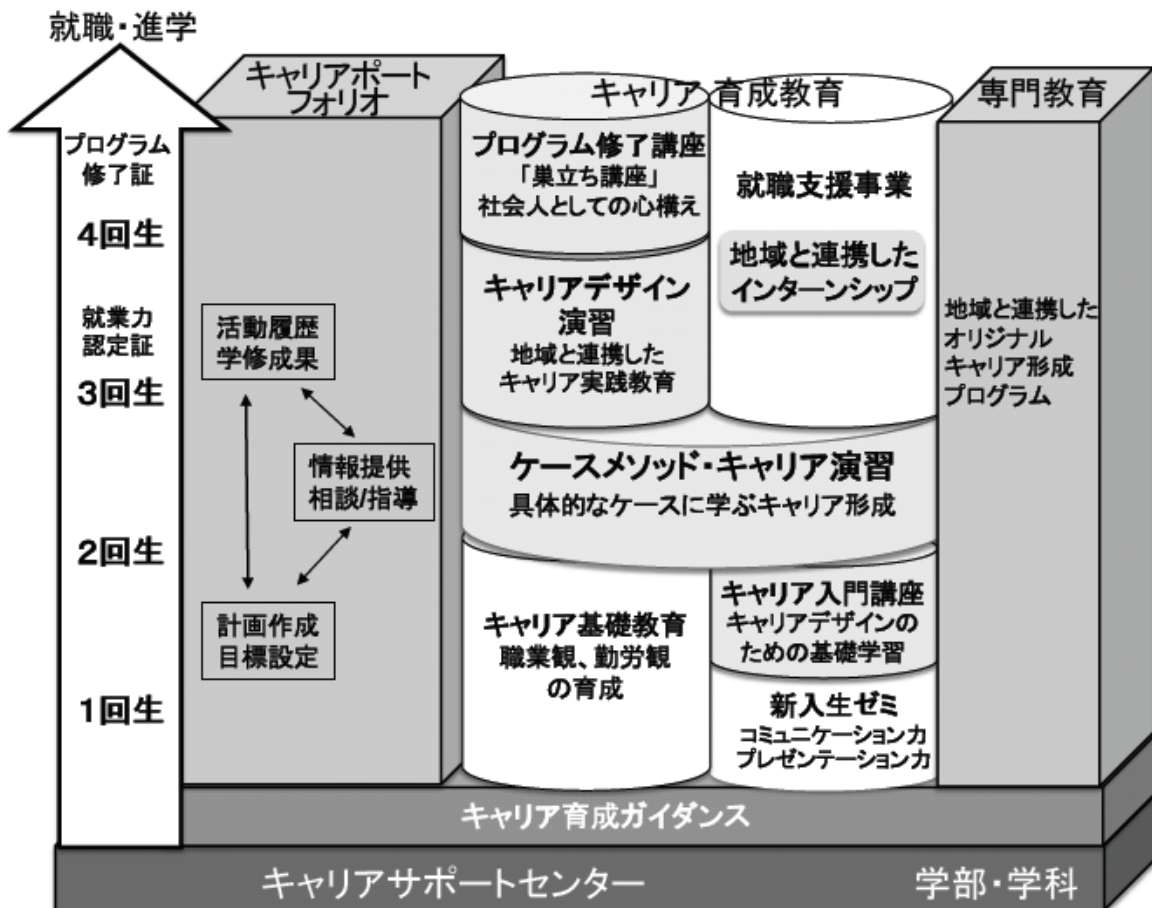
取組の概要【1ページ以内】

本取組は、京都府立大学の理念で謳っている「地域社会に貢献する人材養成」を全学的に実現するためのものであり、今日の社会が必要とする人材、すなわち社会性と協働の精神を持ち、地域社会と積極的に関わる、ワークライフバランスの取れた人間の育成を目的とする。その目的達成のために、初年次から学生のキャリアデザインをサポートする「キャリア育成プログラム」を新たに構築する。

本取組の骨子は、①地域社会に根ざした生き方ができる人間を育てるために、公立大学である特色を活かし、就業や地域に関わる事例を用いたケースメソッドによるキャリア演習や、京都府地域と連携したインターンシップをはじめとする実用的キャリア育成教育を行う、②「キャリアポートフォリオ」システムによって学生と教職員を結び、学生によるキャリアデザイン、計画的な学修及び自己評価、大学による就職情報の提供と指導を通じて就業に結びつけるためのサポートを行う、③「キャリア育成プログラム」の運営を行う組織として「キャリアサポートセンター」を新たに設置する、という3点から成っている。

「キャリア育成プログラム」は下図に示すように、4年間を通じたキャリア育成教育、地域と連携した各学部の専門教育、キャリアポートフォリオの活用から構成される。キャリア育成教育では、キャリア入門講座、ケースメソッド・キャリア演習、キャリアデザイン演習、プログラム修了講座を新設し、初年次から全学的な教育を行う。本プログラムでは、キャリア育成到達度をポイント化し、認定基準を満たした学生に対して3回生後期に「就業力認定証」を、卒業時に「プログラム修了証」を交付する。

京都府立大学キャリア育成プログラム



《大学》

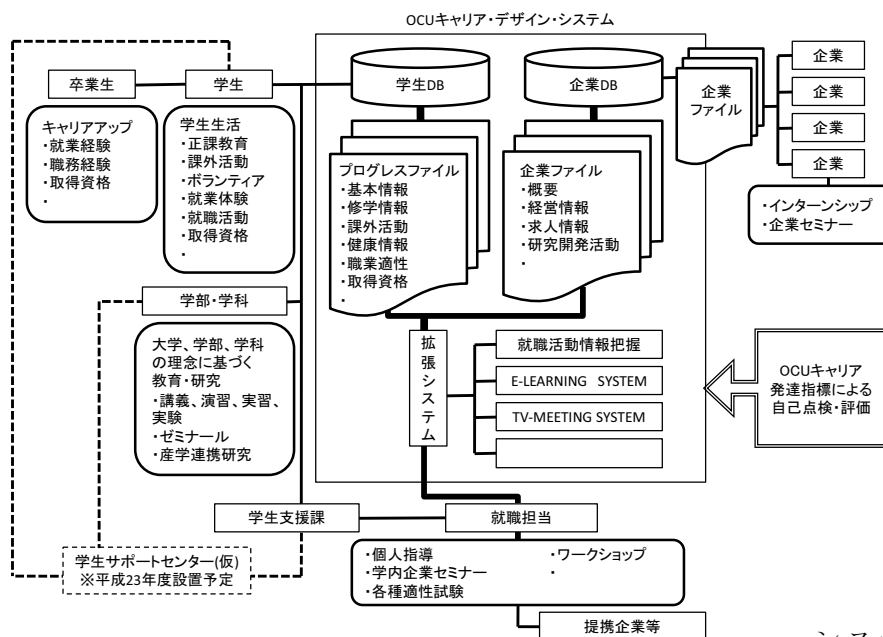
大阪市立大学

【OCUキャリア・デザイン・システムの構築】

本取組の概要と目的

本取組では、(1)「在学中の日常的な学習活動等を通じて、学生が自らの特性を把握し、就業力を含めた資質・能力をいかに向上させたか」に関し、学生が経験する正課・課外活動の軌跡やその成果、自己評価・他者評価の情報等を体系的に**学生情報データベース(以下「DB」という。)**による一元化・可視化を行う。また(2)それらの情報を、学生・教職員が幅広く**活用可能な全学的な基盤整備**を行う。さらに(3)企業情報DBを構築し、(1)で述べた学生情報DBとリンクさせ、学生のもつ特性と企業の求める人材との効率的マッチングや、教職員が行う学生への指導に必要な情報提供を容易にする「OCU(Osaka City University)キャリア・デザイン・システム(以下「OCU/CDS」という。)」を構築する。OCU/CDSは、①学生自身のキャリアデザイン、②教員による学生へのキャリアデザイン教育を含む指導・支援、③学生支援課就職担当による学生への就職支援、④卒業生の卒業後のキャリアアップや就職・転職支援の促進を促すツールとしての活用をめざすものである。

OCU/CDSの特徴は、(a)従来の正課における学生の学習成果のみならず、課外活動や就業体験・就職活動等を通じて習得・向上が期待できる資質・能力評価等を学生個人単位の「**プログレスファイル**」の蓄積を行い、(b)それらの情報を就業力育成に関する全学的な情報資産として一元化して学生・教職員が活用しやすい環境を整え、本学で従来から実践されてきた少人数教育をより効果的に推進できるよう支援するとともに、(c)学生情報DBを企業情報DBとリンクさせ、現代社会が求める就業力を明確化して、時代の要請に応じた就業力の変容にも対応できるよう拡張システムを付加し、**卒業後のキャリアアップ支援**も想定していることにある。また(d)「**OCUキャリア発達指標**」の開発を行い学生の学習成果を評価し、大学全体の教育の成果に基づくPDCAサイクルの実質化を試みる。これらのシステムを介して、学生は、日常的な活動をプログレスファイルとして積み重ね、自らの正課・課外活動等を常に振り返ることができ、キャリアデザインや就業力の発達に関する目標を立てて学びやすい環境を得る。また教職員は、学生に関する定量的・定性的情報を得て、学生の特性にあわせたきめ細かい各種支援が可能になる。



システム概念図

《大学》

大阪府立大学

【子育て教育系キャリア・コラボ力育成】

取組の概要【1ページ以内】

現代の大きな社会問題の1つになっている子どもの虐待や貧困、保護者の学校へのクレームの増加など子どもの生活学習環境の悪化、これらの背景からの不登校や非行、引きこもりの増加が見られ、対応できる教員や社会福祉、心理の専門職の人材の輩出が求められている。現状の専門職養成だけではこういった課題に十分な就業力を養成できていないことは、教員の病気休職者数が10年前に比べ倍増している現状からも明らかである。

本事業は、ヒューマンサービス領域でも子どもに関わる領域を対象とする。今までの社会福祉、心理、教育という単独学科や課程の学びの範囲を超えて、幅広く深い知識と実践を学習することで教育や福祉、心理という自身の専門性を深く知り、コラボレーション力（他職種と協働する力のことを指し、以下「コラボ力」とする）を高め、社会的な課題を解決する力を養成することを目的とする。具体的には、学校や保育所、児童相談所、発達障害児支援センターなど子どもに関する機関に就職する学生、フリースクール、ひきこもり支援、貧困層への支援等NPOの立ち上げや就職を目指す学生に就業力をもたらす。

本事業は、実践現場に出る前の養成段階から、連携・協働教育を行うインタープロフェSSIONALエデュケーション（IPE）の考えを活用したもので、医療、高齢者福祉現場での展開はあるが、まだ実績がない子育て・教育の現場で取り組もうというものである。

そのポイントの1点は、単独のフィールド体験を経て問題意識を高め、その上で様々な専門領域の学生がともに演習を重ね、実習に出向くという、段階的に養成段階から協働で学習することによって深く考察し、現状を打開する課題解決力、他職種の刺激から新しい発想出現による企画力・政策力、難題を前に調整するコラボレーション力を習得する。ポイントのもう1点は、学生の就職先である機関とともに議論する場を設定することで、ディスカッション力や企画力を向上させ、就業力を高める。

ポイントであるコラボ演習や実習に至るまでに、各専門性に重要な基礎科目の横断的履修を可能にし、さまざまなフィールドを体験する機会（海外も含む）を作る。また、南大阪地域大学コンソーシアムの提携大学を基本に、上記のような現代的課題に対応することが求められている、新しい職種であるスクールソーシャルワーク養成を実施している複数の大学にも科目提供する。本学だけでなく、同領域に取り組む大学全体の学士力向上に波及させる。

図1. 子育て・教育系キャリア・コラボ力育成

